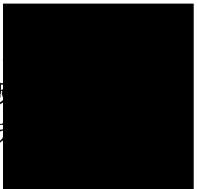


厚生労働大臣 殿

東京都板橋区大谷口上町  
 日本大学医学部附属板橋病院  
 病院長 澤



## 日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第12条の3の規定に基づき、平成19年度の業務に関して報告します。

## 記

1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照（様式第10）

2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照（様式第11）

3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	139.3人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法

→ 別紙参照（様式第12）

5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方式及び閲覧の実績

6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績

→ 別紙参照（様式第13）

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業員の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	393人	63.4人	456.4人	看護業務補助者	55人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	6人	6.4人	12.4人	理学療法士	10人	臨床検査技師	83人
薬剤師	43人	0.2人	43.2人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保健師	47人	0.7人	47.7人	視能訓練士	5人	その他	0人
助産師	28人	0人	28人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	692人	10.3人	702.6人	臨床工学技士	19人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	7人	0人	7人	栄養士	5人	その他の技術者	0人
歯科衛生士	2人	2.1人	4.1人	歯科技工士	1人	事務職員	88人
管理栄養士	12人	0人	12人	診療放射線技師	60人	その他の職員	35人

(注) 1 報告を行う当該年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

## 8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	787.9人	33.2人	821.1人
1日当たり平均外来患者数	2219.7人	55.0人	2274.7人
1日当たり平均調剤件数	外来分：14.1剤 入院分：828.3剤		

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。

- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数（毎日の24時現在の在院患者数の合計）を曆日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ曆日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・無	0人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
凍結保存同種組織を用いた外科治療	有・無	0人
胎児心超音波検査	有・無	0人
インプラント義歯	有・無	0人
顎顔面補綴	有・無	0人
顎関節症の補綴学的治療	有・無	0人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法	有・無	0人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・無	0人
光学印象採得による陶材歯冠修復法	有・無	0人
経皮的レーザー椎間板減圧術	有・無	0人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	有・無	0人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	有・無	0人
CTガイド下気管支鏡検査	有・無	0人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	有・無	0人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・無	0人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
三次元形状解析による顔面の形態的診断	有・無	0人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	有・無	0人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断	有・無	0人
腹腔鏡下肝部分切除術	有・無	0人
悪性腫瘍に対する陽子線治療	有・無	0人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術	有・無	0人
成長障害のDNA診断	有・無	0人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術	有・無	0人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術	有・無	0人
声帯内自家側頭筋膜移植術	有・無	0人
骨髄細胞移植による血管新生療法	有・無	0人
ミトコンドリア病のDNA診断	有・無	0人
鏡視下肩峰下腔除圧術	有・無	12人
神経変性疾患のDNA診断	有・無	0人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	有・無	0人
重粒子線治療	有・無	0人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術	有・無	1人
31磷-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の侵襲的診断	有・無	0人
神経芽腫のRNA診断	有・無	0人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	有・無	0人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断	有・無	0人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体窒素処理骨移植	有・無	0人
脾腫瘍に対する腹腔鏡補助下脾切除術	有・無	0人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・無	0人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断	(有)・無	13人
エキシマレーザー冠動脈形成術	有・無	0人
活性化Tリンパ球移入療法	有・無	0人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・無	0人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術	有・無	0人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び医療	有・無	0人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術	有・無	0人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植	有・無	0人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術	有・無	0人
ケラチン病の遺伝子診断	有・無	0人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・無	0人
抹消血幹細胞による血管再生治療	有・無	0人
抹消血単核球移植による血管再生療法	有・無	0人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	有・無	0人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線学療法	有・無	0人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断	有・無	0人
超音波骨折治療	有・無	3人
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテーラーメイドのヘリコバクター・ピロリ菌除去療法	有・無	0人
非生体ドナーから採取された同種骨・韌帯組織の凍結保存	有・無	0人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術	有・無	0人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価	有・無	0人
膀胱水圧拡張術	有・無	10人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・無	0人
先天性インスリン血症に係る遺伝子診断	有・無	0人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	有・無	0人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いた除去術	有・無	0人
腹腔鏡下直腸固定術	有・無	0人
骨髓移植による関節温存型再建	有・無	0人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション	有・無	0人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍)	有・無	0人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	有・無	0人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断	有・無	0人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術	有・無	12人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	有・無	0人
先天性難聴の遺伝子診断	有・無	2人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断	有・無	0人
培養細胞による先天性代謝異常診断	有・無	0人
腹腔鏡下子宫体がん根治術	有・無	0人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・無	0人

先進医療の種類	届出受理	取扱い患者数
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	(有)・無	0人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・無	0人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	有・無	0人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・無	0人
カフェイン併用化学療法	有・無	0人
胎児尿路・羊水腔シャント術	有・無	0人
筋過緊張に対するmuscle afferent (MAB) 治療	有・無	0人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法	有・無	0人
内視鏡下甲状腺がん手術	有・無	0人
骨腫瘍のCT透視下ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法	有・無	0人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法	有・無	0人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術	有・無	0人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・無	0人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法	有・無	0人

(注) 1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行なっている場合は、空欄の部分に記入すること。

先進医療で上の表に掲げられていない治療法	届出受理	取扱い患者数
治療不応性虚血性心疾患に対しての逆行性冠静脈細胞移植治療	有・無	3人
低エネルギー衝撃波による心筋血管新生療法	有・無	14人

## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱い患者数	疾 患 名	取扱い患者数
・ベーチェット病	2人	・モヤモヤ病（ウィリス動脈輪閉塞症）	1人
・多発性硬化症	20人	・ウェグナー肉芽腫症	3人
・重症筋無力症	66人	・特発性拡張型（うつ血型）心筋症	5人
・全身性エリテマトーデス	8人	・多系統萎縮症	10人
・スモン	2人	・表皮水疱症（接合部型及び栄養障害型）	0人
・再生不良性貧血	0人	・膿庖性乾癬	0人
・サルコイドーシス	105人	・広範脊柱管狭窄症	0人
・筋萎縮性側索硬化症	4人	・原発性胆汁性肝硬変	35人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	10人	・重症急性膀胱炎	16人
・特発性血小板減少性紫斑病	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	0人
・結節性動脈周囲炎	0人	・混合性結合組織病	0人
・潰瘍性大腸炎	36人	・原発性免疫不全症候群	0人
・大動脈炎症候群	0人	・特発性間質性肺炎	126人
・ビュルガー病	25人	・網膜色素変性症	30人
・天疱瘡	0人	・ブリオン病	1人
・脊髄小脳変性症	27人	・原発性肺高血圧症	1人
・クローン病	12人	・神経線維腫症	4人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・悪性関節リウマチ	0人	・バッド・キアリ（Budd-Chiari）症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	260人	・特発性慢性肺血栓塞栓症（肺高血圧型）	5人
・アミロイドーシス	0人	・ライムズーム病（ファブリー [Fabry] 病）含む	0人
・後縦靭帯骨化症	0人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	0人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること

## 3 病院・臨床検査の部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	<p>1 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。</p> <p>2 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。</p>
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	年に 10 回 開催
剖 檢 の 状 況	剖検症例数 88 例 , 剖検率 14, 6 %

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
角膜における細胞外ドメインシェディングを紹介した病態生理機構の解明	崎元暢	眼科	117万円	補助 科学研究費・若手研究(B)
高温環境下での血管内皮細胞傷害伸展因子-高グルコース濃度の影響	木下浩作	救命センター	330万円	補助 科学研究費補助金基盤研究(C)
自然災害発生後の2次の健康被害発生予防及び被災における健康危機管理の保健所等行政機関の役割に関する研究	木下浩作	救命センター	60万円	補助 厚生労働省補助金(健康科学総合研究事業)
熱中症による多臓器不全伸展機序-特に高温強化での高血糖の影響	木下浩作	救命センター	100万円	補助 日本大学医学部同窓会60周年記念医学部奨励金
グルコサミン・ヒアルロン酸内服による自然発症関節性マウスへの影響	龍順之助	整形外科	100万円	委託 生化学工業株式会社
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	徳橋泰明	整形外科	100万円	補助 厚生労働省科学研究費
光工学技術と体内埋設型刺激ディバイスを用いた脳機能異常の分析と制御 1.ヒト脳組織の光学的特性の測定と脳機能の可視光分光による計測 2.光工学技術と体内埋設型刺激ディバイスによるヒト神経回路機能の分析 3.光工学技術と体内埋設型刺激ディバイスによるヒト神経回路の制御の参加プロジェクト「運動機能の評価と術後のリハビリーションの効果判定」(プロジェクトでの役割 研究の整形外科的推進)	徳橋泰明	整形外科	25万7608円	補助 文部科学省産学連携研究推進事業
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的治療法の確立に関する研究	吉田行弘	整形外科	120万円	補助 厚生労働省科学研究費
治療不応性虚血性心疾患に対しての逆行性冠静脈骨髓単核細胞移植治療	高山忠輝	循環器内科	286万円	補助 平成19年度科学研究費補助金基盤研究(C)
味覚傷害例の舌における味覚受容体遺伝子発現から見た味覚障害の病態解明	池田稔	耳鼻咽喉科	70万円	補助 科学研究費基盤研究(C)

注1 國、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
味覚傷害の新しい診断法(SeReP)の開発とのそ応用	池田稔	耳鼻咽喉科	570万円	補助 日本大学学術研究助成金
血管病発症・阻止機構に関わる血流下内皮細胞発現因子の網羅的解析	三俣昌子	病理診断科	1299万円	補助 日本大学 平成19年度 学術助成金[総合研究]
歯周病によるメタボリック症候群関連疾患の誘発機序の解明とその制御	三俣昌子	病理診断科	100万円	補助 平成19年度学術フロンティア研究
健康日本21 こころの健康づくりの目標達成のための休養・睡眠のあり方に関する根拠に基づく研究	内山真	精神神経科	550万円	補助 厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)
精神疾患に合併する睡眠障害の診断・治療の実態把握と睡眠医療の適正化に関する研究	内山真	精神神経科	125万円	補助 厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動の情報収集に関する研究	内山真	精神神経科	-	補助 厚生労働科学研究費補助金(こころの健康科学研究事業)
候補遺伝子と統合失調症の相関と、それらの遺伝子と探索眼球運動や陰性症状との関係	高橋栄	精神神経科	377万円	補助 科学研究費補助金(基盤研究(C))
新しいTIPS用modified covered stentの開発	高橋元一郎, 吉橋哲, 吉信尚	放射線科	143万円	補助 科学研究費基盤研究(C)
電子線利用研究施設の放射光(パラメトリックX線)を利用した生体高分子タンパク質の結晶構造(VI)と医学生物的研究	高橋元一郎, 奥畑好孝, 斎藤勉	放射線科	60万円	補助 日本大学量子科学研究所平成19年度共同研究
単色X線の培養細胞に及ぼす放射線損傷の研究	高橋元一郎, 斎藤勉	放射線科	40万円	補助 平成19年度学術フロンティア推進事業

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元
前立腺がんのリスク評価と化学	高橋悟	泌尿器科	80万円	補平成19年度化学研究費補助金
呼吸不全に関する調査研究	赤柴恒人	睡眠センター	100万円	補厚生労働省科学研究費
健康づくりのための休養や睡眠のあり方に関する研究	赤柴恒人	睡眠センター	120万円	補厚生労働省科学研究費
腎芽腫に関わる遺伝子異常の特性解明と遺伝子サイレンシングに関する研究	草深竹志	小児外科	169万円	科学研究費補助金 基盤研究C
小腸移植拒絶反応制御を目的とした集学的治療の確立	杉藤公信	小児外科	234万円	科学研究費補助金 基盤研究C
小児がん治療患者の長期フォローアップとその体制整備に関する研究	草深竹志	小児外科	100万円	補厚生労働省科学研究費補助金
治療過程管理を導入した小児横紋筋肉腫に対する臨床試験と遺伝子解析研究	草深竹志	小児外科	-	科学研究費補助金 基盤研究A
癌感受性遺伝子探索、機能解析、標的評価、新規治療開発、臨床試験を一環的に研究する拠点推進プロジェクト	草深竹志	小児外科	-	文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業フロンティア推進事業
腎性貧血治療薬開発における臨床評価ガイドライン等の作成に関する研究	岡田一義	腎臓・高血圧・内分泌内科	300万円	補厚生労働省科学研究費補助金
進行性腎障害に対するP1ポリアミドによる遺伝子治療の開発	松本紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科	705万円	日本大学学術助成金(総合研究)

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又委託元	
難治性ネフローゼ症候群	松本紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科	18万円	委	厚生労働省 科学研究費助成金
低出生体重時に対する適正人工乳の開発に関する臨床的研究	細野茂春	新生児病科	113万円	補	平成20年度日本大学医学部創立50周年研究奨励金(共同研究)
維持血液透析患者における血清マンノース結合レクチンの形態と役割	里村厚司	臨床検査医学科	79万円	補	日本大学
慢性腎不全(透析療法未施行)・維持血液透析患者における免疫能の検討-血清マンノース結合レクチンの形態と役割を中心いて-	里村厚司	臨床検査医学科	100万円	補	日本大学
遺伝子多型検索による高血圧個別化診療の確立の確立に関する研究	相馬正義	総合科(内科担当)	100万円	補	厚生労働省化学研究費
降圧治療および抗凝固療法の個人の特性に応じたテーラーメード治療確立の研究	相馬正義	総合科(内科担当)	50万円	補	厚生労働省化学研究費

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Jan J Ophthalmol 51:100-104, 2007	Soluble IL-6 receptor in vitreous fluid of patients with proliferative diabetic retinopathy	Kawashima M, Shoji J, Nakajima M, Kamura Y Sato Y	眼科
Jpn J Ophthalmol 51:332-337, 2007	Concentration of soluble interleukin-6 receptors in tears of allergic conjunctival disease patients	Shoji J, Kawaguchi A, Gotoh A, Inada N Sawa M	眼科
Jpn J Ophthalmol 51:338-342, 2007	Evaluation of total and allergen-specific secretory IgA in tears of allergic conjunctival disease patients	Inada N, Shoji J, Hoshino M, Sawa M	眼科
Jpn J Ophthalmol 51:343-346, 2007	Upregulation of matrix metalloproteinase in tear fluid of patients with recurrent corneal erosion	Sakimoto T, Shoji J, Yamada A, Sawa M	眼科
眼科 49 : 211-215, 2007	カッターナイフによる小児の穿孔性眼外傷の1例	川島美和子, 中島正巳, 崎元丹, 三井正博, 遠藤純子	眼科
眼科 49 : 357-361, 2007	両眼の壊死性強膜炎の1例	岡島泰彦, 稲田紀子澤 充, 北村登白岩秀隆, 松川吉博, 武井正美	眼科
眼科 49 : 1095-1100, 2007	フレアメーター (FM-600) の有用性の検討 フレアメーター (FM-500) との臨床比較試験	澤 充, 嘉村由美, 中島正巳, 三井正博, 崎元 丹, 岡島泰彦	眼科
眼科 49 : 1101-1110, 2007	抗体アレイ法を用いたアレルギー性結膜炎におけるサイトカインプロフィールの検討	庄司 純 後藤亜希 川口敦里, 稲田紀子澤 充	眼科
眼科 49 : 1229-1234, 2007	Immune recovery uveitisの1例	荒川正子, 中島正巳 岩田光治, 内山昌明 室本圭子, 澤田滋正	眼科
眼科 49 : 1725-1728, 2007	高齢者に認めた結膜MALTリンパ腫に対し経過観察を行った一例	崎元 暢, 金丸峯男	眼科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日コレ誌 49 : 35-43, 2007	シリコーンハイドログルレンズ (HiDk)の臨床試験報告	忍田太紀, 伏見紀子, 澤 充, 土至田宏, 太田亜紀, 工藤大介, 高橋康造, 村上 晶	眼科
眼科 49 : 111-126, 2007	結膜の展望 2003 年度	崎元 暢	眼科
東京都医師会雑誌 60:1946-1954, 2007	緑内障性乳頭陥凹の診方	山崎芳夫	眼科
日本の眼科 79:159-160, 2008	自動視野計による緑内障性視野変化の長期経過の評価	山崎芳夫	眼科
眼科 50:291-303, 2008	緑内障の視野検査	山崎芳夫	眼科
眼科 50 : 197-200、2008	角膜周辺部浸潤を合併した川崎病の1例	菅谷哲史, 崎元暢, 澤 充	眼科
眼科 50 : 89-96, 2008	小児の眼部帯状疱疹の2症例	川口敦里、稲田紀子, 庄司 純、澤 充	眼科
日コレ誌 50 : 84-87, 2008.	ソフトコンタクトレンズにおける生物学的汚れに関する検討	高浦典子, 稲田紀子, 庄司 純, 澤 充	眼科
Hepatogastroenterology. Jul-Aug;54(77) :1462-6. 2007	Changes in glucagon processing occurring in the intestines of surgically stressed patients.	Tanjoh K	救命救急センター
Hepatogastroenterology. Apr-May;54(75) :927-31. 2007	The expression of the inducible nitric oxide synthase messenger RNA on monocytes in severe acute pancreatitis.	Tanjoh K	救命救急センター

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Intensive Care Med. Jan;34(1):109-15.	Hyperglycemia and lipopolysaccharide decrease depression effect of interleukin 8 production by hypothermia: an experimental study with endothelial cells.	Noda A	救命救急センター
Ninon Univ. J. Med. 73-83, 2007	Systemic responses following severe brain damage.	Kinoshita K	救命救急センター
Neurol Res. 29:47-52, 2007	Inhibition of lipopolysaccharide stimulated interleukin-1beta production after subarachnoid hemorrhage.	Kinoshita K	救命救急センター
J Surg Res. Jan;144(1):127-31.	Interleukin-8 production from human umbilical vein endothelial cells during brief hyperglycemia: The effect of tumor necrotic factor alpha.	Kinoshita K	救命救急センター
蘇生 27: 27-32, 2008	心肺停止蘇生後患者に対する重症度判断と脳低温療法の効果予測	木下浩作	救命救急センター
日集中医誌 15:151-152, 2008	脳低温療法: いかに冷やすか	木下浩作	救命救急センター
日本手の外科学会雑誌 23(5):666	Mirror Handの治療経験	長尾聰哉	整形外科
Journal of Hand Surgery 32B:210-213, 2007. 4	Triggering at the distal A2 pulley	Nagaoka Masahiro	整形外科
膝 31829:253-257, 2007. 5	スポーツによる両膝前十字靱帯損傷例の顆間窓横径比に関する検討	布袋屋浩	整形外科
日本手の外科学会雑誌 23(6):978-982, 2007	遠位橈尺関節症による伸筋腱皮下断裂の検討	長尾恵	整形外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
The Journal of Japanese Society for Spine Surgery and Related Research 18(3):594-596, 2007. 12	Outcome after surgeries for primary spinal sarcoma	Tokuhashi Yasuaki	整形外科
The Journal of Japanese Society for Spine Surgery and Related Research 18(3):642	A study of post-operative hematoma with neurological complication in spinal surgery	Uei Hiroshi	整形外科
第 82 回日本感染症学会、一般演題 080 (抄録集 p262), 松江、H20. 4. 17-18, 2008	Coxiella burnetii 感染(QFS)患者の抑うつおよび自殺の傾向に関する研究	荒島康友、矢久保修司、熊坂一成、他	東洋医学科
第 82 回日本感染症学会、一般演題 081 (抄録集 p263), 松江、H20. 4. 17-18, 2008	Coxiella burnetii 感染による抑うつ状態から自殺した一例	矢久保修嗣、荒島康友、熊坂総一、他	東洋医学科
日大医学雑誌	乳癌の担癌患者における免疫動態について	櫻井健一	乳腺内分泌外科
癌と化学療法	進行・再発乳癌に対する Trastuzumab 単独開始例と Taxane 系抗がん剤併用開始例との比較	櫻井健一	乳腺内分泌外科
Virchows Arch: 451: 929-935, 2007.	Supplemental utility of nested PCR for the pathological diagnosis of disseminated trichosporonosis.	Sano M, Sugitani M, Ishige M, Horita T, Kikuchi K, Sunagawa K, Obana Y, Uehara Y, Kumazaka K, Uenogawa K, Kobayashi S, Hatta Y, Takeuchi J, Nemoto N	病理診断科
第 48 回日本臨床細胞学会総会、大阪、2007. 6	臨床的に胃粘膜下腫瘍が疑われた肺未分化癌の腹水細胞診	佐野 誠、本間 琢、尾花ゆかり、菊池建太郎、生沼利倫、小松京子、関 利美、春日広一、馬嶋恒博、根本則道	病理診断科
第 17 回日本口腔粘膜学会、東京、2007. 7	肉芽腫性口唇炎と考えられた 1 例。	菊池建太郎、楠美嘉晃、石毛俊之、山田勉、崎山宣英、北野尚孝、小池文彦、吉田美昭、植木輝一、根本則道	病理診断科
13th International Congress of Mucosal Immunology, Toyo, 2007. 7.	Inhibition of tumor immunity by secreted vascular endothelial growth factor in squamous cell carcinoma of the oral cavity.	Kentaro Kikuchi, Kaoru Kusama, Makoto Sano, Yoko Nakanishi, Toshiyuki Ishige, Sumie Ohni, Toshinori Oinuma, Norimichi Nemoto	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
第 18 回日本口腔病理学会総会・学術大会、岐阜、2007, 8, 10.	口腔癌における VEGF 発現と樹状細胞（シンポジウム 2：口腔癌の増殖、進展のメカニズム）。	菊池建太郎	病理診断科
第 38 回 日本病理学会関東支部学術集会、2008, 2.	転移巣が先行して発見された乳腺原発神経内分泌腫瘍の一例。	渕之上史、杉谷雅彦、前田哲代、菊池建太郎、生沼利倫、根本則道	病理診断科
第 39 回 日本病理学会関東支部学術集会、東邦大学医学部、2008, 6.	下大静脈原発と考えられた平滑筋肉腫の一剖検例。	渕之上史、菊池建太郎、大荷澄江、生沼利倫、山田勉、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
Electric publication, On-line journal.	Ruptured Giant Aneurysm of the Left Anterior Descending Coronary Artery in Kawasaki Disease. Pediatric Cardiology	Keishin Sunagawa, Masako Mitsumata, Yoshiaki Kusumi, Mamoru Ayusawa	病理診断科
日本病理学会. Vol. 24, No. 2., 2007.	消化管アニサキス症 5 例の臨床的および病理学的検討。	砂川恵伸、渕之上史、本間琢、絹川典子、生沼倫利、林紀乃、桂義久、根本則道	病理診断科
American Journal of Reproductive Immunology 2007;57: 218-226	Expression of inducible microsomal prostaglandin synthase in local lesions of endometriosis Patients.	Fumihsa Chishima, Satoshi Hayakawa, Tatsuo Yamamoto, Masahiko Sugitani, Miki Karasaki-Suzuki, Kenji Sugita, Norimichi Nemoto	病理診断科
Scandinavian J Gastroenterol 2007;42:207-214	Usefulness of rectally administering [1-13C]-butyrate for breath test in active and quiescent ulcerative colitis.	Kimitoshi Kato, Yukimoto Ishii, Shigeaki Mizuno, Masahiko Sugitani, Satoshi Asai, Tadashi Kohno, Sigeo Takahashi, Sachiko Komuro, Maho Iwamoto, Shunpachi Miyamoto, Tadatoshi Takayama and Yasuyuki Arakawa	病理診断科
Virchows Arch 2007;451:929-935	Supplemental utility of nested PCR for the pathological diagnosis of disseminated trichosporonosis.	Makoto Sano, Masahiko Sugitani, Toshiyuki Ishige, Taku Homma, Kentaro Kikuchi, Keishin Sunagawa, Yukari Obana, Yuki Uehara, Kazunari Kumazaka, Uenogawa Kuni, Sumiko Kobayashi, Yoshihiro Hatta, Jin Takeuchi, Norimichi Nemoto	病理診断科
Nihon Univ J Med 2007;49:21-27	A case of nonalcoholic fatty liver disease with latent autoimmune thyroiditis differentiated from autoimmune hepatitis by laparoscopy and liver biopsy.	Abe H, Yamamoto T, Shoji S, Takeuchi R, Amakai S, Otani T, Ogawa M, Ogihara A, Tanaka N, Iwasaki A, Arakawa Y, Sugitani M	病理診断科
World J Gastroenterol. 2007;13:1995-7	A case of eosinophilic cholangitis. imaging findings of contrast-enhanced ultrasonography, cholangioscopy, and intraductal ultrasonography.	Matsumoto N, Yokoyama K, Nakai K, Yamamoto T, Otani T, Ogawa M, Tanaka N, Iwasaki A, Arakawa Y, Sugitani M	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌 2008;67:11-15	放射線照射とソマトスタチンアナログ投与が奏効した継隔内カルチノイド合併多発性内分泌腺腫症 I 型の 1 例	北島晃、桜井健一、天野定雄、杉谷雅彦、根本則道、斎藤勉、中山智祥	病理診断科
日本臨床細胞学会雑誌 2008;47:205-10	細胞診が早期発見に役立った悪性胸膜中皮腫の一例	尾花ゆかり、生沼利倫、杉谷雅彦、小松京子、関利美、砂川恵伸、楠美嘉晃、根本則道	病理診断科
Report of a case. Surg Today. 2008;38:163-165	An impending rupture of a celiac artery aneurysm in a patient with Behcet's disease - Extra-anatomic aorto-common hepatic artery bypass	Maeda H, Umezawa H, Goshima M, Hattori T, Nakamura T, Negishi N, Oinuma T, Sugitani M, Nemoto N	病理診断科
Xth International Congress of Reproductive Immunology of the International Society for Immunology of Reproduction (ISIR), Opatija, Croatia, June 10-14, 2007	Expression of inducible microsomal prostaglandin synthase in local endometriosis lesions	Chishima F, Hayakawa S, Sugitani M, Karasaki-Suzuki M, Sugita K, Hiraiwa Y, Tamura M, Nakazzawa T, Yamamoto M	病理診断科
第 43 回日本肝癌研究会 抄録集 pp202, 演題番号 P203, H19. 6. 21-22, 東京, 2007	肝細胞癌術後 23 年無再発生存の 1 例	藤崎滋、高山忠利、富田涼一、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
第 4 回日本病理学会カンファレンス 抄録集 pp35 演題番号 P-07 H19. 7. 27-28 旭川, 2007	C型肝炎ウイルス再感染実験	杉谷雅彦、阿部賢治、志方俊夫、西村伸一郎、水野喬介	病理診断科
第 42 回日本婦人科腫瘍学会学術集会 抄録集 pp278 演題番号 CP5-5, H19. 6. 29-7. 1 東京, 2007	急速に増悪した上皮性卵巣腫瘍脱分化より生じた hCG 産生粘液性腺癌の一例	楫田賢司、高田眞一、浅沼直紀、佐々木重、村瀬隆之、山本樹生、杉谷雅彦	病理診断科
第 54 回日本臨床検査医学会総会・第 47 回日本臨床化学会年会連合大会 演題番号 P15-10 大阪 H19. 11. 22.-25. 臨床病理 55(supple): 328, 2007	臍局所解剖で明らかになったNesidioblastosis の 1 例	大荷澄江、生沼利倫、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
第 69 回日本臨床外科学会総会 演題番号 0-203 H19. 11. 29-12. 1 横浜 日本臨床外科学会雑誌 68(supple): 147, 2007	乳腺 Tubular Carcinoma の検討	桜井健一、谷真弓、榎本克久、北島晃、飯塚美紗都、村上絵里子、前田哲代、天野定雄、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
第 22 回日本生殖免疫学会総会 抄録集 pp12 演題番号 25 H19. 11. 30-12. 1. 東京 2007	子宫内膜症病巣におけるプロスタグランдин E 合成酵素 (PGES) の発現と臨床的パラメーターとの関連	千島史尚、鈴木 (唐崎) 美喜、楫田賢司、平岩由紀子、田村正明、中澤禎子、市川 剛、杉谷雅彦、早川 智、山本樹生	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
第 46 回日本臨床細胞学会秋期大会 会 H19.11.30.12.1. 仙台 演題 番号 357 日本臨床細胞学会雑誌 46(supple2) : 590, 2007	子宮腔部に転移を認めたNeuroblastomaの一例	芳野淳子、小松京子、関利美、生沼利倫、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
The 14th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology. pp18, Chiang Rai, Thai, January 16-18, 2008	Cytomorphological, immunohistochemical and cytometric analyses of non-gynecologic liquid-based cytology preparations using laser microdissection technique.	Nemoto N, Honma T, Fuchinoue F, Hemmi A, Sugitani M, Obana Y, Yoshino A, Seki T, Komatsu K.	病理診断科
第 38 回日本病理学会関東支部学術集会・交見会、一般演題番号 5、例 伊勢原(東海大学)H20.23., 2008	転移巣が先行して発見された乳腺原発神経内分泌腫瘍の一例	渕之上史、杉谷雅彦、前田哲代、菊池建太郎、生沼利倫、根本則道	病理診断科
The 18th Conference of the Asian Pacific Association for the Study of the Liver, March, 2008, Hepatology International 2:A250, 2008	Airway stent Implantation for Bronchial stenosis caused by mediastinal metastasis of hepatocellular carcinoma.	Oshiro S, Yamamoto T, Tanaka Y, Miura T, Hosoi A, Matsumoto N, Nakagawa H, Hiroi Y, Ogawa M, Amaki S, Tanaka Y, Moriyama M, Yoshinobu N, Sugitani M	病理診断科
BBRC, 358:679-685, 2007.	Swings in blood glucose levels accelerate atherosgenesis in apolipoprotein E-deficient mice.	Tomoya Mita, Aiko Otsuka, Kosuke Azuma, Toyoyoshi Uchida, Takeshi Ogihara, Yoshio Fujitani, Takahisa Hirose, Masako Mitsumata, Ryuzo Kawamori, Hirotaka Watada	病理診断科
J Thromb Thrombolysis DOI 33.1007/s11239-007-0158-x, 2007.	Lysophosphatidylcholine upregulates LOX-1, chemokine receptors, and activation-related transcription factors in human T-cell line Jurkat.	Yuko Hara, Yoshiaki Kusumi, Masako Mitsumata, Xiao-Kang Li, Masayuki Fujino	病理診断科
Journal of Vascular Research (J Vasc Res) 2008;45:303-313 (DOI:10.1159/000113602).	Gene expression in endothelial cells and intimal smooth muscle cells in atherosclerosis-prone or -resistant regions of the aorta.	A. K. M. KhyrulWara, MasakoMitsumata, Tetsu Yamane, Yoshiaki Kusumi, Yoji Yoshida	病理診断科
Toxicology and Applied Pharmacology, 230 : 135-143, 2008.	Inhibition of aryl hydrocarbon receptor transactivation and DNA adduct formation by CYP1A1-selective metabolic deactivation of benzo[a]pyrene.	Kaori Endo, Shigeyuki Uno, Taichiro Seki, Toyohiko Ariga, Yoshiaki Kusumi, Masako Mitsumata, Sachiko Yamada, Makoto Makishima	病理診断科
Pediatric Cardiology, DOI 10.1007/s00246-008-9236-x, 2008.	Ruptured giant aneurysm of the left anterior descending coronary artery in Kawasaki disease.	KeishinSunagawa, Masako Mitsumata, Mamoru Ayusawa, Yoshiaki Kusumi: Ruptured giant aneurysm of the left anterior descending coronary artery in Kawasaki disease.	病理診断科
Stem cells and development, 2008.	Mouse embryonic stem cells give rise to gut-like morphogenesis, including intestinal stem cells, in the embryoid body model.	NoriyoshiKonuma, KumikoWakabayashi, Taro Matsumoto, Yoshiaki Kusumi, Takayuki Masuko, Yuji Iribé, Masako Mitsumata, Hideyuki Okano, Takeshi Kusafuka, Hideo Mugishima	病理診断科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日本臨床細胞学会雑誌 46巻6号、平成19年11月	腹膜原発二相性悪性中皮腫の1剖検例	渕之上史、生沼利倫、楠美嘉晃、関利美、小松京子、大荷澄江、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
第38回日本病理学会関東支部学術集会・交見会 平成20年2月23日	転移巣が先行して発見された乳腺原発神経内分泌腫瘍の一例	渕之上史、杉谷雅彦、前田哲代、菊池健太郎、生沼利倫、根本則道	病理診断科
第49回日本老年医学会学術集会、札幌、2007.6.22	高齢者間質性肺炎におけるユビキチン陽性を呈する肺胞上皮細胞についての研究（2）	山田 勉、大荷澄江、三俣昌子、松本太郎、上野高浩、上原健司、水谷智彦、川端美則	病理診断科
第54回日本臨床検査医学会学術集会、大阪、2007.11.24	脾局所解剖で明らかになったNesidioblastosisの1例	大荷澄江、生沼利倫、杉谷雅彦、根本則道	病理診断科
Ultrastructural Pathology, 31:293-302, 2007	Chondrosarcoma with Myxoid Change : A Study Using a Quick-freezing and Deep-etching Method	Akihiro Hemmi, Shunzo Osaka, Sumie Ohni, Norimichi Nemoto, Nobuhiko Ohno, Nobuo Terada, Yasuhisa Fujii, Shinichi Ohno.	病理診断科
第481回日本大医学会例会、東京、2008.1.19	イレウスで発症した脾癌の一例	森田祥子、宮崎晃行、笠原三津子、橋爪正明、佐藤博信、大荷澄江	病理診断科
第97回日本病理学会総会 2008年5月17日	演題番号 3-G-19 Disturbed flowとLaminar flow負荷下における内皮細胞の増殖と単球接着の関連についての検討	帶包妃代	病理診断科
15th International Vascular Biology Meeting: 1-5 June 2008, Sydney, Australia	Poster Session 2, P176: Correlation of endothelial proliferation with monocyte adhesion under laminar or disturbed shear stress.	Hiyo Obikane1, Yoshimitsu Abiko2, Hikaru Ueno3, Yoshiaki Kusumil, Mariko Esumil, Tatsuo Yamamoto1, Masako Mitsumatal	病理診断科
Cardiovasc Res. 2008 Mar 1;77(4):809-18.	Aryl hydrocarbon receptor mediates laminar fluid shear stress-induced CYP1A1 activation and cell cycle arrest in vascular endothelial cells.	Zhiyi Han1, Yoshikazu Miwal, *, Hiyo Obikane2, Tatsuo Yamamoto1, Masako Mitsumata2, Fumi Takahashi-Yanagal, Sachio Morimoto1 and Toshiyuki	病理診断科
熱傷34(1号) 26~31	遊離筋皮弁により再建した膝蓋骨露出を伴う深達性膝部熱傷の治療経験	栗原幸司	形成外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
year note 主要病態・主要疾患の論文集 2008 1603-1619, 2007	睡眠障害の診断と治療	内山真	精神神経科
精神医学 49(5) 487-498, 2007	不眠症とその近接領域	内山真	精神神経科
糖尿病診療 Q&A 399-341, 2007	眠れない、どうしよう？（うつ病も含む）	内山真	精神神経科
糖尿病療養指導 Q&A 270-272, 2007	不眠・うつ状態の患者にはどう対処すればよいでしょうか？	内山真	精神神経科
老年医学 45(6) 733-738, 2007	うつ病と睡眠障害	内山真	精神神経科
medicina44(7) 1242-1245, 2007	不眠を訴える患者へのアプローチ	内山真	精神神経科
治療 89(7) 2376-2380, 2007	不眠症の治療による日中のQOLの改善 —DAY-QOL study—	内山真、他	精神神経科
杏林医学会雑誌 37(4) 102-117, 2007	Associations of Daily-Life Related Factors and Occupations Associated with the Accumulation of Somatic or Psychological Complaints in the General Adult Population of Japan	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
SLEEP30(9) 1155-1161, 2007	Is Passive Smoking Associated With Sleep Disturbance Among Pregnant Women?	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
Geriatric Medecine (老年医学) 45(6) 679-685, 2007	睡眠障害の経済的評価	内山真、他	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
臨床精神薬理 10 (11) 2035-2045, 2007	期待される新規作用機序の睡眠障害治療薬	内山真	精神神経科
日本医師会雑誌 136(8) 1511-1515, 2007	睡眠障害の診断と睡眠薬の使い方	内山真	精神神経科
SLEEP MEDICINE8(7) 723-732, 2007	Use of alcohol and hypnotic medication as aids to sleep among the Japanese general population	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
睡眠医療 2(1) 39-44, 2007	季節性感情障害と睡眠	内山真	精神神経科
睡眠医療 2(1) 83-88, 2007	子供の睡眠習慣質問票日本語版 the Japanese version of children's Sleep Habits Questionnaire (CSHQ-J) の作成	内山真、他	精神神経科
医学のあゆみ 223(10) 837-841, 2007	不眠・睡眠不足とメタボリックシンドローム	内山真	精神神経科
こころの病気を知る辞典 177-180, 2007	ナルコレプシー	内山真	精神神経科
臨床精神医学 36(増刊号) 98-103, 2007	睡眠障害	内山真	精神神経科
薬局 59(1) 3-9, 2007	睡眠を調節する2つのメカニズム	内山真	精神神経科
精神科治療学 23(1) 47-53, 2008	睡眠障害治療に有用な臨床検査	内山真	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
SLEEP MEDICINE Review 11(6) 485-496, 2007	Circadian rhythm sleep disorders: Characteristics and entrainment pathology in delayed sleep phase and non-24 sleep-wake syndrome	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
Current medical research and opinion 24(1) 307-317, 2008	An international survey of sleeping problems in the general population.	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
脳と精神の医学 18(4) 251-263, 2007	不眠症の実態と不眠症治療の位置づけ	内山真	精神神経科
Journal of the American Geriatrics Society 55(1) 95-101, 2007	The Japanese Centenarian Study: Autonomy Was Associated with Health Practices as Well as Physical Status	Makoto Ushiyama, et al	精神神経科
Clin Rheumatol 27:237-240	Eye movement and random number in NP lupus evaluation.	Sakae Takahashi, et al	精神神経科
Psychiatry Clin Neurosci 62:396-403, 2008	The relationship between exploratory eye movement, P300, and reaction time in schizophrenia.	Sakae Takahashi, et al	精神神経科
Psychiatry Clin Neurosci 62:487-493, 2008	Impairments of exploratory eye movement in schizophrenic patients and their siblings.	Sakae Takahashi, et al	精神神経科
Schizophrenia Frontiers 8:136-139, 2007	統合失調症の認知機能評価 眼球運動	高橋栄、他	精神神経科
Cognition and Dementia 6(2) 52-59, 2007	認知症と睡眠についてのトピックスレーベー小体型認知症と睡眠	金野倫子、他	精神神経科
女性外来診断マニュアル 94(suppl) 302-308, 2007	不眠	金野倫子、他	精神神経科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
精神科治療学 22(9) 991-1000, 2007	高齢者における睡眠障害とせん妄—その連続性に着目して 鑑別と治療を考える—	金野倫子, 他	精神神経科
東京精医会誌 25(1) 21-25, 2007	Huntington病に伴う幻覚妄想状態にRisperidoneが奏功した1例	降旗隆二、他	精神神経科
Journal of Digital Imaging	System for Pertinent Displaying and Image Searching. Angiographic and histologic type correlation	Abe K, et al:	放射線科
日大医学雑誌	18F-FDG および 11C-Acetate を用いた dual-PET による腫瘍診断の試み	矢野希世志, 他	放射線科
日大医学雑誌	PACS がもたらすものと導入の留意点	阿部克己, 他	放射線科
日大医学雑誌	画像診断シリーズ CT Angiography の現状と臨床的有用性	阿部克己, 他	放射線科
臨床放射線	図で覚える放射線生物化学 (8) 科学放射線療法 (1)	齋藤勉	放射線科
臨床放射線	図で覚える放射線生物化学 (9) 科学放射線療法 (2)	齋藤勉	放射線科
産婦人科手術	産婦人科領域における止血のための動脈塞栓術	前林俊也, 他	放射線科
Int Oncol, 16(6):1189-1196, 2007	J Silencing of MYCN by RNA induces growth inhibition, apoptotic activity and cell differentiation in a neuroblastoma cell line with MYCN amplification.	Kusafuka T	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Pediatrics International, 49(1):58-63, 2007	Intussusception in children of school age.	Ikeda T	小児外科
Journal of Pediatric Surgery, 42(6):1095-1097, 2007	Treatment of fistula-in-ano in infants with a seton.	Ikeda T	小児外科
Pediatrics International, 49(5):668-671, 2007	Traumatic intramural hematoma of duodenum with thrombasthenia in childhood.	Ikeda T	小児外科
Transplantation Proceedings, 39(10):3432-3435, 2007	Effect of Fty720 and Ex Vivo Graft Irradiation in rat small bowel transplantation: Apoptosis of Cells and Lymphocytes.	Sugito K	小児外科
Pediatric Surgery International, 23(12):1203-1207, 2007	Intraoperative Radiation Therapy for Advanced Neuroblastoma: The Problem of securing the IORT Field.	Sugito K	小児外科
日大医学雑誌, 66(1):60-69, 2007	Potent Anti-tumor effects of Combination therapy using Interleukin-23 and $\alpha$ -galactosylceramide.	Kaneda H	小児外科
診断と治療社, 315-324, 2007	各論 12 胚細胞性腫瘍（奇形腫群腫瘍）、新小児がんの診断と治療（別所文雄、他 編）	草深竹志	小児外科
診断と治療社, 337-340, 2007	各論 14 まれな腫瘍 iv) 脾芽腫、新小児がんの診断と治療（別所文雄 他 編）	草深竹志	小児外科
東京医学社, 421-425, 2007	新生児編 I. 症候ナビゲーション消化器 95. 腹部膨満、周産期の症候・診断・治療（周産期医学編集委員会）	草深竹志	小児外科
日本小児外科学会誌, 43巻(7) : 961-962, 2007	日本小児外科学会機関誌委員会 日本小児外科学会雑誌投稿に関するアンケートの結果報告	草深竹志	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日本小児外科学会誌、43 (1) : 692-695, 2007	4 回の回復術下セプラフィルム使用により癒着を防止した両側性ウイルムス腫瘍の1 小児例	草深竹志	小児外科
小児外科、39 (3) : 281-286, 2007	特集 まれな新生児外科疾患の治療 虫垂炎	池田太郎	小児外科
日本小児外科学会誌、43 (1) : 23-31, 2007	小児腸重積症の臨床的検討	星野真由美	小児外科
埼玉県医学会雑誌 42 (1) : 153-156, 2007	当院における消化管ステント症例の検討	五十嵐誠悟	小児外科
Surgery Today 38 卷 1 号 38-41, 2008	Effect of FTY720 and Ex Vivo Graft Irradiation in Rat Small Bowel Transplantation: Expression of Addressin Cell Adhesion Molecule-1	K. Sugito	小児外科
Journal of Clinical Ultrasound 36 卷 1 号 56-58, 2008	Usefulness of Color Doppler Sonography and $^{99m}\text{Tc}$ -RBC Scintigraphy for Preoperative Diagnosis of a Venous Malformation of the Small Intestine in a 2-year-old Child	K. Sugito	小児外科
The Turkish Journal of Pediatrics 50 卷 1 号 94-97, 2008	A Rare Case of Multiple Duodenal Perforations in Early Infancy	K. Sugito	小児外科
小児外科 40 卷 2 号 94-97, 2008	慢性便秘症の直腸肛門感覚についての検討	池田太郎	小児外科
小児がん 45 卷 1 号 41-45, 2008	初発時 stage I で再発をきたした卵巣若年性顆粒膜細胞腫 (juvenile granulosa cell tumor: JGCT) の1例	草深竹志	小児外科
小児外科 45 卷 9 号	マスクリーニング陽性でその後無治療期間を経て腫瘍進展が考えられた症例	杉藤公信	小児外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日本小児外科学会誌 44巻1号 24-28, 2008	タール便にて発症した乳児胃原発未熟型奇形腫の1例	草深竹志	小児外科
小児がん 45巻1号 61-65, 2008	再発 Wilms腫瘍2例に対する大量化学療法	草深竹志	小児外科
Hepato-Gastroenterology 55巻 760-765, 2008	Effects of mosapride citrate on patients after vagal nerve, lower esophageal sphincter, and pyloric sphincter-preserving nearly total gastrectomy reconstructed by jejunal J pouch interposition, and postoperative quality of life	R.Tomita	小児外科
Pediatr Hematol Oncol 25巻 439-450, 2007	A case series of children with high-risk metastatic neuroblastoma treated with a novel treatment strategy consisting of postponed primary surgery until the end of systemic chemotherapy including high-dose chemotherapy	T.kusafuka	小児外科
Stem Cells Dev	Mouse Embryonic Stem Cells Give Rise to Gut-like Morphogenesis, Including Intestinal Stem Cells, in the Embryoid Body Model	N.Konuma	小児外科
Circulation J. 2007;71:286-287	What is the optimal management for preventing saphenous ven graft diseases?-Early results of intravascular angiographic assessment-	HATA M, et al	心臓外科
Circulation J. 2007;71:1279-1282	Prognosis for patients with type B acute aortic dissection:Risk analysis of early death and requirement of elective surgery	HATA M, et al	心臓外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 2007;13:213-5	A surgical case of left ventricular pseudoaneurysm complicating myocardial infarction in a diabetic patient on dialysis	YODA M, et al	心臓外科
日本脈管学会誌 2007;47:615-619	B型急性大動脈解離に対するクリニカルパスの効果-早期離床と肺酸素化障害の予防効果-	新野哲也 他	心臓外科
Surgery Today 2008;38:62-4	Surgical treatment of an aortoesophageal fistula caused by stent implantation for esophageal stenosis: report of a case.	UNOSAWA S, et al	心臓外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Circulation J 2008 72:335-6	First Case Report in Japan of Left Ventricular pacing via a Coronary Vein in a Patient With a Mechanical Tricuspid Vlve.	YODA M, et al	心臓外科
総合臨床 2008;57;327-31	虚血性心疾患治療の新時代-外科的治療-	秦光賢	心臓外科
Ann Thorac Cardiovasc Surg 2008;14:25-28	Vascular Protecting Effect of Angiotensin Receptor Blocker (ARB) on the Radial Artery Graft.	HATA M, et al	心臓外科
Thorac Cardiovasc Surgeon 2008;56:274-7	Proton pump inhibitors may increase the risk of delayed bleeding complication after open heart surgery if used concomitantly with warfarin	HATA M, et al	心臓外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2008;135:1042-1046	Should emergency surgical intervention be performed for an octogenarian with type A acute aortic dissection?	HATA M, et al	心臓外科
J Thorac Cardiovasc Surg 2008;136:489-493	Less invasive quick replacement for octogenarians with type acute aortic dissection	HATA M, et al	心臓外科
Surgery Today 2008;38(9):773-7	Mechanical circulatory support for fulminant myocarditis	HATA M, et al	心臓外科
J Card Surg 2008:Epub4	Successful treatment of fulminant myocarditis with mechanical circulatory support	FURUKAWA N, et al	心臓外科
Int J Cardiol 2008:Epub	Reoperation for aortic valve stenosis due to severe calcification of the bioprosthetic valve after modified Bentall operation in Takayasu	FURUKAWA N, et al	心臓外科
J Card Surg 2008;23:349-50	A Simple and Safe Operation method for Brachiocephalic Artery Aneurysms	YODA M, et al	心臓外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Vascular and Endovascular Surgery, 42(2):135, 2007	Large Abdominal Aortic Aneurysm With Aortocaval Fistula	Maeda H, Umezawa H, Goshima M, Hattori T, Nakamura T, Tkasaka A, Negishi N	血管外科
血栓と循環, 15(4):471-473, 2007	深部静脈血栓症における低分子ヘパリンによる血栓退縮、再発予防効果	前田英明, 根岸七雄	血管外科
板橋区医師会学会誌, 12 : 308-312, 2007	当科における下肢閉塞動脈硬化症に対する血管内治療成績	服部努, 前田英明, 梅澤 久輝, 根岸七雄	血管外科
脈管学, 47(2):215:220, 2007	慢性動脈閉塞症に対する自家骨髓細胞移植の治験経験	梅澤久輝, 根岸七雄, 斎藤穎, 麦島秀雄, 福田昇	血管外科
Surgery Today, 37:445-448, 2007	Surgery for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm with an Aortocaval and Iliac Vein Fistula	Maeda H, Umezawa H, Goshima M, Hattori T, Nakamura T, Nishii T, Tkasaka A, Negishi N	血管外科
血管外科, 26(1):123-127, 2007	Popliteal venous aneurysm の 1 手術例	服部努, 前田英明, 梅澤久輝, 五島雅和, 中村哲哉, 高坂彩子, 小林宏彰, 河内 秀臣, 根岸七雄	血管外科
Heart View, 11(11):1240-1243, 2007	急性動脈閉塞の原因と病態, 再灌流傷害	前田英明, 根岸七雄	血管外科
心臓血管外科テキスト, 中外医学社 : 415-421 : 2007	急性動脈閉塞症 (閉塞症, 血栓症)	前田英明, 根岸七雄, 梅澤久輝	血管外科
照林社 : 249-251, 2008	深部静脈血栓摘出術。溶解療法 ナースのための術前・術後マニュアル	根岸七雄	血管外科
Report of a Case Surgery Today, 38:163-165, 2008	An Impending Rupture of a Celiac Artery Aneurysm in a patient with Behcet's Disease-Extra-Anatomic Aorto-Common Hepatic Artery Bypass	Maeda H, Umezawa H, Hattori T, Nakamura T, Negishi N, Oinuma T, Sugitani M, nemoto N	血管外科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
medicina	睡眠呼吸器傷害の治療方針	赤柴恒人	睡眠センター
Moderen Physisian	睡眠時無呼吸症候群	赤柴恒人	睡眠センター
呼吸器ケア	睡眠時無呼吸症候群	赤柴恒人	睡眠センター
呼吸と循環	睡眠時無呼吸症候群患者の予後	赤柴恒人	睡眠センター
呼吸と循環	呼吸不全と睡眠呼吸障害	赤柴恒人	睡眠センター
東京都医師会雑誌	睡眠時無呼吸症候群の診断と治療のガイドライン	赤柴恒人	睡眠センター
Clin Chim Acta. 389:93-97. 2008	Heterogeneity of high-density lipoprotein in cord blood and its postnatal change.	Hirotoshi Fujita	新生児病科
Archives Disease of Childhood Fetal and Neonatal Edition 93:F14-19. 2008	Umbilical cord milking reduces the need for fed cell transfusions and improves neonatal adaptation in infants born less than 29 weeks' gestation: a randomized control trial.	Shigeharu Hosono	新生児病科
Am J Hypertens. 21(1):72-77, 2008	Effects of an ARB on Endothelial Progenitor Cell Function and Cardiovascular Oxidation in	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Biochem Biophys Res Commun. 367(2):468-473, 2008	Complement3 activates the KLF5 gene in rat Vascular smooth muscle cells.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Journal of Clinical Microbiology, 46:1698-1707, 2008	Novel Wide-Range Quantitative Nested Real-Time PCR Assay for Mycobacterium tuberculosis DNA:Development and Methodology.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Clinical Nephrology, 69:354-360, 2008	The influence of hemodialysis membranes on the plasma insulin level of diabetic patients on maintenance hemodialysis.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Nephrol. 21(1):53-63, 2008	TGF-beta1 and CTGF mRNAs are correlated with urinary protein level in IgA nephropathy.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Ther Apher Dial. 12(2):171-5, 2008	Clinical Evaluation of Pneumonia-associated Rhabdomyolysis With Acute Renal Failure.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Am J Hypertens. 21: (6) 691-5, 2008	Association between Fatty Acid binding Protein 3 gene variants and essential hypertension in humans.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
diabetes Res Clin Pract 80(3):432-438, 2008	Efficacy of pioglitazone on type2 diabetic patients with hemodialysis.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Endocrine. 2008 Apr;33(2):215-22, 2008	Haplotype-based case study of human CYP4A11 gene and cerebral infarction in Japanese subject.	松本 紘一, 泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Nephrol Dial Transplant. 23(7):2254-9, 2008	Elevated urinary plasmin activity resistant to alpha2-antiplasmin in acute poststreptococcal glomerulonephritis.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Hypertension. 52(1):86-92, 2008	New gene silencer pyrrole-imidazole polyamide targeting lectin-like oxidized low-density lipoprotein receptor-latters attenuates restenosis of the artery afterinjury	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Hypertens Res 31(5):1021-1031, 2008	Cardiovascular Remodeling and Metabolic Abnormalities in SHRSP-Z-Leprfa/IzmDmcr Rats as a New Model of Metabolic Syndrome.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Am J Hypertens. 21(9):1062-8, 2008	Effects of Antioxidative beta-Blocker Celiprolol on Endothelial Progenitor Cells in Hypertensive Rats. Am J Hypertens.	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Nat Clin Pract Nephrol. Sep;4(9):482-3	Glycated hemoglobin or glycated albumin for assessment of glycemic control in hemodialysis patients with diabetes?	松本 紘一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Hypertension Research 31(5):1021-1031, 2008	Cardiovascular remodeling and metabolic abnormalities in SHRSP-Z-Leprfa/lzmDmc rats as a new model of metabolic syndrome.	上野高浩	腎臓・高血圧・内分泌内科
American Joynal of Hypertension 21(6):691-695, 2008	Association of fatty acidbinding protein 3 gene variants with human essencial hypertension.	上野高浩	腎臓・高血圧・内分泌内科
American Journal of Hypertension 20(10):1045-1050, 2007. 10	Effect of age at menopause on blood pressure in postmenopausal woman.	泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Intenational Journal of Medical Sciences 4:146-152, 2007. 5	A Nove Variabke Number of Tandem Repeat of the Natriuretic Peptide Precursor B gene's 5'-Flanking Region	泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Journal of Hypertension Mar;26(3):453-61.	A Haplotype of the CYP4A11 gene associated with essential hypertension in Japanese men.	泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Endocrine. 2008 Apr;33(2):215-22, 2008	Haplotype-based case study of human CYP4A11 gene and cerebral infarction in Japanese subject.	泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
Int J Med Sci. 2008 Feb;7;5(1):29-35	associstion study of aromatase gene (CYP19A1) in essential hypertension A haplotype-basedof the	泉洋一	腎臓・高血圧・内分泌内科
明 海 歯 科 医 学 36(2):69-73, 2007. (09)	高度情報化時代における医歯薬系教育	熊坂一成	臨床検査医学科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Virchows Archiv; 451(5): 929-935, 2007.	PCR for the pathological diagnosis of disseminated trichosporonosis.	熊坂一成	臨床検査医学科
臨床病理 (7): 671-677, 2008(7)	55 Laboratory Practice 感染症法の改正が、臨床検査室に及ぼす影響と問題点を中心に	熊坂一成	臨床検査医学科
臨床化学 37(1): 63-67, 2007. (7)	高分子小腸型 ALP がアガロースゲル電気泳動法における骨型 ALP 分画値に及ぼす影響	熊坂一成	臨床検査医学科
医療と検査機器・試薬 31(1): 99-103, 2008. (2)	東ソーHLC-723G8型 HbA1c 測定装置におけるトレーサビリティの評価	熊坂一成	臨床検査医学科
日大医学雑誌 66, 3, 2007	態にあたえる影響—維持血液透析患者を中心に—	里村 厚司	臨床検査医学科
Blood Purification 26: 196-203, 2008	Circannual rhythm of laboratory test parameters among chronic haemodialysis patient	Mituru YANAI	臨床検査医学科
Scand. J. Urol. Nephrol. 41: 297-301, 2007	Implications of circulating chromogranin A in prostate cancer.	Hirano D	泌尿器科
Urology 69: 1049-53, 2007	Significant relationship of matrix metalloproteinase 9 with nuclear 2 for incidental clear cell renal cell carcinoma.	Kawata N	泌尿器科
Acta Urol. Jpn. 53: 857-862, 2007	Effect of Chinese herbal medicine on overactive bladder.	Takahashi S	泌尿器科
Int. J. Urol. 15: 299-303, 2008	How do the symptoms have impact on the prognosis of RCC?	Kawata N	泌尿器科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Int. J. Urol. 14:87-88, 2007	Intrascrotal involvement of sarcoidosis presenting like testicular appendices.	Obinata D, Yamaguchi K, Hirano D, Fuchinoue A, Nemoto N, Takahashi S	泌尿器科
Acta Urol. Jpn. 53:397-399, 2007	Chronic contained reperature of an abdominal aortic aneurysm mimicking a retroperitoneal	Obinata D	泌尿器科
Urology. 70:1222 e13-6, 2007	Primary malignant melanoma of female urethra.	Yoshizawa T	泌尿器科
Int. J. Urol. 15:361-362, 2008	Preoperative management of Cushing's syndrome with metyrapone for severe psychiatric disturbances.	Obinata D	泌尿器科
第 14 回日本療養病床協会全国研究会京都大会 14 : 38-40, 2007	特集：高齢者の排尿障害と QOL. LTC (ロング・ターム・ケア)	高橋悟	泌尿器科
日大医学雑誌 66:55-59, 2007	特集：癌化学療法の最近の進歩「泌尿器科領域」	吉川哲夫, 高橋悟	泌尿器科
医 薬 ジ ャ ー ナ ル 43: (3) 10-15, 2007	泌尿器疾患プライマリケア・ノート：女性の排尿障害	高橋悟	泌尿器科
Clinic Magazine 455:21-27, 2007	排尿障害の診断と薬物治療～外来における診断と治療のポイント～	杉本周路, 高橋悟	泌尿器科
排尿障害教室. 13:47-50, 2007	抗コリン薬は薬物療法の第一選択一過活動膀胱の診断と治療-難病と在宅ケア	高橋悟	泌尿器科
日 大 医 学 雜 誌 第 66 卷:87-96, 2007	VHL 遺伝子異常の有無による次明細胞型腎細胞癌の違いについて：包括的遺伝子解析による比較。	五十嵐智博, 高橋悟, 江角真理子	泌尿器科

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
日大医学雑誌 第 66 卷:490-492, 2007	腎細胞癌の治療 分子標的薬	川田望, 山口健哉, 高橋悟	泌尿器科
日本医学雑誌 第 67 卷第 1 号 : 21-24 (2008 年 2 月 1 日発行)	講演 平成 19 年度日本大学医学会秋季学術大会(教授就任 講演)泌尿器科低侵襲手術の進歩	高橋悟	泌尿器科
日大医学雑誌 第 67 号 96-99, 2008	特集:内視鏡手術の現状 「泌尿器科領域における内視鏡手 術	杉本周路, 長谷川了, 井門祐一 郎, 大日方大亮, 吉澤剛	泌尿器科
練馬医学会誌 14 : 5-35, 2007	高齢者に多い泌尿器科疾患 ①頻尿・尿失禁(過活動膀胱) ②前立腺癌	高橋悟	泌尿器科
臨床泌尿器科 62 卷 (増刊号) : 22-25, 2008	泌尿器科外来ベストナビゲーション:膀胱炎 3:間質性膀 胱炎	高橋悟	泌尿器科
臨床泌尿器科 62 卷 (増刊号) : 26-27, 2008	泌尿器科外来ベストナビゲーション:膀胱炎 4:血尿	高橋悟	泌尿器科
臨床泌尿器科 62 卷 : 271-280, 2008	骨盤臓器脱に対する tension-free vaginal mesh(TVM) 手術	高橋悟	泌尿器科
臨床泌尿器科 62 卷 3 号 : 183-188, 2008 年 3 月 (医学図書)	特集:前立腺肥大症のいま-古くて新しい疾患前立腺肥大症 のいま-	高橋悟	泌尿器科
Int J Urol, 14:1116-1123, 2007	Meeting Report;The second joint meeting of American Urological Association (AUA)/Japanese Urological Association (JUA) international program on the 102nd Annual Meeting of American Urological Association at Anaheim 2007. "Transvaginal mesh (TVM) reconstruc tion"	Ogan K, Kawai K, Gills Naito S, lassc WB, Suzuki K, Kibe AS, Kakehi Y, Yoshimura N, Yokoyama O, Chancellor MB, Takahashi S	泌尿器科
Endocrine. Apr;31(2):149-53. 2007	Two novel genotypes of the thiazide-sensitive Na-Cl cotransporter (SLC12A3) gene in patients with Gitelman's syndrome. Endocrine.	相馬正義	総合科 (内科担当)

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
Med Sci Monit. 2007; 13(5):BR112-118	Postprandial plasma lipid levels are influenced by the interaction of functional polymorphisms in the microsome triglyceride transfer protein and $\beta$ 3 adrenergic receptor genes.	相馬正義	総合科（内科担当）
Am J Hypertens. 2007 May; 20(5):527-32.	Association Between the Calcitonin-Related Peptide alpha (CALCA) Gene and Essential Hypertension in Japanese.	相馬正義	総合科（内科担当）
International Journal of Medical Sciences. 2007 May;16;4(3):146-52.	A novel variable number of tandem repeat of the natriuretic peptide precursor B gene's 5'-flanking region is associated with essential hypertension among Japanese females.	相馬正義	総合科（内科担当）
2007 Jul;77(1):15-20.	Association between prostaglandin E2 receptor gene and essential hypertension. Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids.	相馬正義	総合科（内科担当）
Hypertens Res 2007 Jul; 30(7): 585-592	Common Single Nucleotide Polymorphisms in Japanese Patients with Essential Hypertension: Aldehyde Dehydrogenase 2 Gene as a Risk Factor Independent of Alcohol Consumption.	相馬正義	総合科（内科担当）
Hypertens Res. Sep;30(9):789-96.	Haplotype-based case-control study of the association between the guanylate cyclase activator 2B (GUCA2B, Uroguanylin) gene and essential hypertension.	相馬正義	総合科（内科担当）
Int J Med Sci. 2008 Feb;7;5(1):29-35.	Association study of aromatase gene (CYP19A1) in essential hypertension.	相馬正義	総合科（内科担当）
Hum Mol Genet. 2008 Feb;15;17(4):617-27.	High-density association study and nomination of susceptibility genes for hypertension in the Japanese National Project.	相馬正義	総合科（内科担当）
Hypertens Res. Feb;31(2):203-12.	Identification of Hypertension-Susceptibility Genes and Pathways by a Systemic Multiple Candidate Gene Approach: The Millennium Genome Project for Hypertension.	相馬正義	総合科（内科担当）
2008 May;26(5):902-13.	Association of TNFRSF4 gene polymorphisms with essential hypertension. Journal of Hypertension.	相馬正義	総合科（内科担当）

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したものの中、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題 名	発表者氏名	所属部門
2008 May;55(2):305-10.	Case-control study of the role of the Gitelman's syndrome gene in essential hypertension. Endocrine Journal.	相馬正義	総合科（内科担当）
International Journal of Urology (2008) 15, 361-362.	Preoperative management of Cushing's syndrome with metyrapone for severe psychiatric disturbances.	相馬正義	総合科（内科担当）

1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合には、主たる発表者の氏名を記入すること。

## 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 澤 充		
管理担当者氏名	庶務課長：伊藤 伸行 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 薬剤部長：丹正 勝久 医学部庶務課長：立石 重美		
		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録		病歴課	病歴資料については、カルテ、エックス線写真とも個人別、科別、年度別にファイルしており、外来資料については5年間、入院資料については永久保存を原則としている。
病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書			
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 板橋病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病歴課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績	当該診療科	
	閲覧実績	病歴課 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	庶務課 医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	庶務課 医事課 薬剤部	
	体制確定期の状況及び各号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行なう者の配置状況	医療安全管理室 庶務課
	専任の院内感染対策を行なう者の配置状況		
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況		
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況		
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善の方策の状況		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録 規則第9条及び第23条及び第11条の各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室	
	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課	
	従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室	
	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の実施状況	感染予防対策室	
	医薬品の使用に係る安全な管理の方策の実施状況	薬剤部	
	従事者に対する医薬品の安全使用のための責任者の配置状況	庶務課 薬剤部	
	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
	医薬品の安全使用のために必要となる情報収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	薬剤部	
	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	臨床工学技士室 中央放射線部 庶務課	
	従事者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学技士室 中央放射線部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲 覧 責 任 者 氏 名	事務長 小 林 清
閲 覧 担 当 者 氏 名	庶務課長：伊藤 伸行 会計課長：小島 和行 医事課長：榎並 修一 病歴課長：千葉 哲夫 医学部庶務課長：立石 重美
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・病院会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延 4 件
閲覧者別	医 師 延 0 件
	歯 科 医 師 延 0 件
	国 延 1 件
	地方公共団体 延 2 件
	そ の 他 延 1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹 介 率	6 1 . 3 %	算定期間	平成 19 年 4 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日
算出根拠	A : 紹介患者の数		2 1 , 3 9 1 人
	B : 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		1 6 , 8 4 1 人
	C : 救急用自動車によって搬入された患者の数		6 , 9 4 8 人
	D : 初診の患者の数		5 6 , 7 4 4 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて

小数点以下第1位まで記入すること。

2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規則第9条の23及び第1条の11号各号に掲げる体制の確保状況

① 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (1名) • 無
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> (1名) • 無
③ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 無
・所属部員：専任 (1) 名 兼任 (8) 名	
・活動の主な内容：	
医療安全管理室を設置し、医療安全管理委員会において検討された方針に基づき、組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。	
④ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="radio"/> 無
⑤ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="radio"/> 無
・指針の主な内容：	
日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。	
① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定、平成16年1月改定、平成19年9月改定）	
② 安全管理体制組織運営	
・医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定、平成17年11月改訂）	
・リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定）からセーフティマネジャーに関する規則と名称変更（平成18年9月改訂）また、諸規則に記載されている「リスクマネジャー」は「セーフティマネジャー」と読み替えて運用。	
・医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定、平成18年9月改訂）	
③ 安全管理体制確保のための委員会	
・医療安全管理委員会規則（平成12年5月制定、10月改定、平成14年4月改定、平成16年1月改定、平成17年11月改訂、平成19年9月改訂）	
・医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定、平成16年1月改定、平成17年11月改定）	
④ 医療事故発生時の対応方法	
・インシデント・アクシデントレポート運用規則（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定、平成18年9月改定、平成19年9月改定）	
・インシデント・アクシデントレポートフローチャート（平成12年5月制定、平成13年2月改定、平成13年4月改定、平成16年1月改定）	
・重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定、平成14年4月改定、平成19年9月改定）	
⑤ 患者相談室窓口運用要項（平成15年10月制定、平成16年1月改定）	
・患者相談窓口フローチャート	

⑥ 医療に係る安全管理のための指針の整備状況

年 12 回

・活動の主な内容：

「医療安全管理委員会」は副病院長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部、中央放射線部、臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セーフティマネジャー）により構成されている。定例で月1回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年3回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。  
下部組織として各部門の主任以上の者にセーフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。

⑦ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

年 3 回

・研修の主な内容：

医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施した。

① 平成19年6月4日（月）、7日（木）、8日（金）

※第1回医療安全講習会

「AEDについて」「災害と医療安全」「医療安全のお知らせ」

②平成19年11月7日（水）、15日（木）、16日（金）

※第2回医療安全講習会

「医療法の一部改正について」「個人情報保護法について」

③平成20年3月5日（水）、7日（金）、10日（月）、11日（火）

※第3回医療安全講習会

「医療安全管理指針、院内感染対策指針について」

「災害と医療安全パート2」「医療廃棄物最-近の話題-」

⑧ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備：

（有）無

・インシデント・アクシデント・レポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。

・その他の改善のための方策の主な内容：

①インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度にはインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。

②提出されたインシデントレポート、外部のレポート、現場からの問題提起、インターネットやメディアックスなどから事例を収集・把握し、情報を得ている。また、上記情報を踏まえて、医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い、レベルの高い事故事例については平成18年度から設置した4部門の事例別ワーキンググループに付託し、詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。

③24時間いつでも提出可能にするために、医療安全管理室にポストを設置。

④医療安全管理室員の連携（情報交換）をとるために、週1回の連絡会を開催し、情報の共有化を図り、分析・予防対策等の検討を行っている。

⑤専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い、報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。

⑥「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には、回覧で読んだことを証明してもらうため、確認票も添付し、そこにサイン（押捺）させ、医療安全管理室で確認票を収集・管理している。

⑦可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合、当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「緊急症例検討会」を開催し、今後再発防止策を検討・実施している。

## 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・指針の主な内容 :	
・ 基本理念, 感染対策の基本方針, 感染防止対策委員会について, 職員研修について 感染症発生時の報告体制, 感染症発生時の対応, 閲覧について, その他	
②院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・活動の主な内容 :	
・ 感染症情報, 針刺し切創・皮膚粘膜暴露・CDトキシン陽性件数, 耐性菌検出情報 抗MRS薬使用状況及び抗菌薬使用状況, ICT活動報告, 院内ラウンド, 院内感染マニュ アルの作成について, カルバペネム系抗生素の届出について, 感染症法の改正について 麻疹・風疹のワクチンについて, ICDの講習会について, 感染対策リンクドクター制度 の導入について, 感染対策指針について, ノロウイルスへ対応について, インフル エンザ罹患者について等	
③従事者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
・研修の主な内容	
・ 針刺し事故防止, 廃棄容器と安全機材を使用について ・ 感染症対策について (ノロウイルス, インフルエンザ, 結核) ・ 院内感染防止対策指針の説明	
④感染症の発生状況の報告その他院内感染対策の推進を目的とした改善の方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備 ・その他の改善のための方策の主な内容	( (有)・無 )
・アウトブレイク報告・対応 ・ICTニュース (広報活動) ・ICTラウンド (評価)	

## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・指針の主な内容 :</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アナフィラキシーショックの対応について</li><li>・持参薬の手順書について</li></ul>	
<p>③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況</p>	
<p>・手順書の作成 ( (有)・無 )</p>	
<p>・業務の主な内容 :</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・医療安全管理室で承認した手順書確認リストにのっとりチェックするとともに安全管理者が実施できているか把握する</li></ul>	
<p>④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他医薬品の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況</p>	
<p>・医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 )</p>	
<p>・その他の改善の方策の主な内容 :</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・重要な情報に関し、各部門が周知したかどうかの確認のフィードバックを確立する</li></ul>	

## 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	( <input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 :	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器の有効性・安全性に関する事項</li> <li>・ 医療機器の使用法に関する事項</li> <li>・ 医療機器の保守点検に関する事項</li> <li>・ 医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項</li> <li>・ 医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li> <li>・ ライナックの構造、保守管理、放射線発生装置の安全な取扱いについて</li> <li>・ 肺定位照射時のQA・QCについて</li> </ul>	
③医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )	
・ 保守点検の主な内容 :	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保守点検の実施状況、使用状況、修理状況等</li> <li>・ ライナック : 定期点検 年4回 メーカーに依頼</li> <li>・ RALS : 定期点検 年2回 メーカーに依頼</li> </ul>	
④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他医療機器の安全使用を目的とした改善の方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ) ・ 無 )	
・ その他の改善の方策の主な内容 :	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 病棟巡視を行い、各病棟における医療機器の相談を受け、操作方法の説明、勉強会の依頼、安全情報の伝達を行なっている。</li> <li>・ メーカーから報告される改修・注意事項に従い適宜改修等を行い、治療計画装置では安全使用を図るため最新のソフトにバージョンアップを行なっている。</li> </ul>	